























カトリック司祭ブイジュ師の墓地案内

ブイジュ神父は一八六八年フランスに生まれ一八八四年24歳でパリ外宣教會の神父になる。同年長崎に派遣されラゲ神父より日本語の手ほどきを受け一九〇三年この瀬戸の地に着任する。瀬戸教會を中心に19年間司牧活動をしその間に現在の聖堂を建築する。神父は偉大な人物であり、その人々と親しくつきあひ、地元の精神文化に大きく貢献する。晩年の息子の高幹を心配した母は、結婚を求めたが神父は「私は命に忠実であるためにすべてを犠牲にしました。今になって妻を求めたいとは思いません。神のものとしてこの返事を残し、本國に帰ることはできません。神のものを残すことな

る。この地で54歳の生涯を終えて、7月12日にはブイジュ祭を催している。

自らを語らず全てを奄美に献じた宣教師



カトリック司祭ブイジュ師の墓地案内

ブイジュ神父は一八六八年フランスに生まれ一八八四年24歳でパリ外宣教会の神父になる。同年長崎に派遣されラゲ神父より日本語の手ほどきを受け一九〇三年この瀬田の地に着任する。瀬田教会を中心に19年間司牧活動をし、その間に現在の聖堂を建築する。神父は信者たちにもっとよき美徳の人々と親しくつきあひ地域の精神文化に大きく貢献する。晩年、息子の高幹を心配した母は帰国を求めたが神父は「私は召命に忠実であるためにすべてを犠牲にしました。今になって後悔を覚えるにはいきません。神のものとしてこの世を去ることに決めました。この返事を残し、本國に帰ることはできません。この地で64歳の生涯を終えています。長年、この地を愛した神父の命は、ここに永遠に生きています。7月12日にはブイジュ祭を催している。

自らを語らず全てを美に献けた宣教師











































